

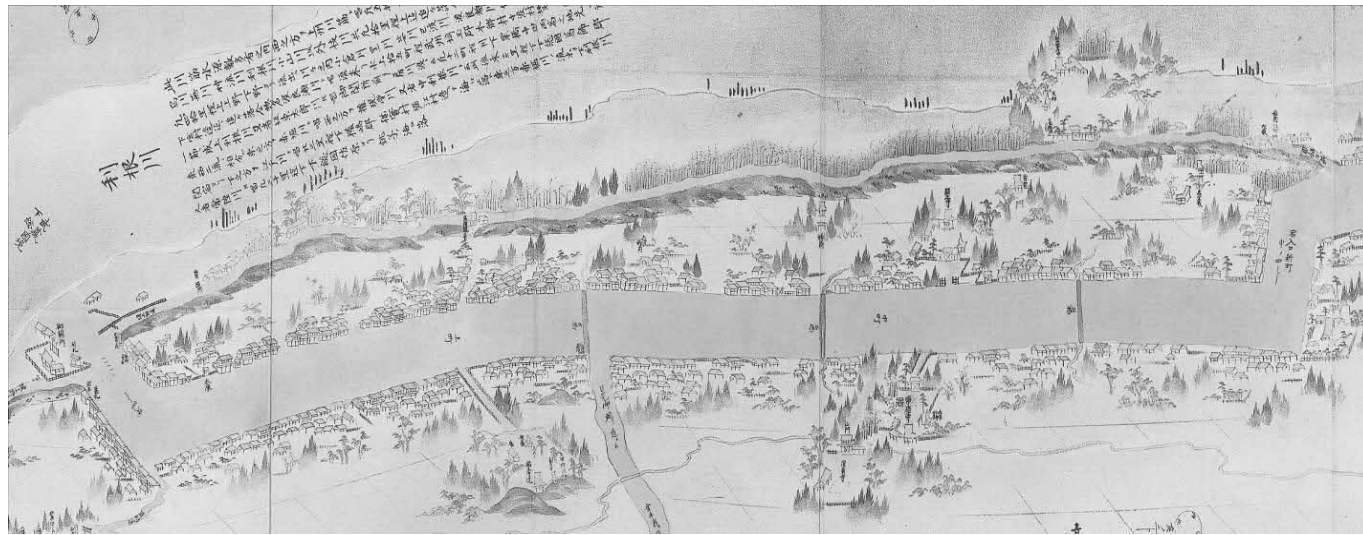
久喜市指定文化財

# 吉田家水塚展示案内

## ＜栗橋宿の歴史＞

栗橋宿は、今から約400年前江戸幕府の命令により、下総国葛飾郡栗橋村（現茨城県五霞町元栗橋）の池田鴨之介・並木五良平らによって開発されました。開発当時は「新栗橋町」または「上河辺新田」と呼ばれ、栗橋村からは農民54戸が移住したと伝えられています。後に日光道中が整備され、「栗橋宿」と呼ばれるようになりました。

栗橋宿は、関所と渡船場を備えた宿場として発展しました。宿場には、旅籠屋や茶店などが軒を連ね賑わっていました。



＜栗橋宿＞「日光道中分間延絵図」（東京国立博物館）

## ＜栗橋関所＞

関所とは、江戸を守るため、大河や山間の峠などの交通の難所を利用して設けられ、通行する旅人や貨物の取調べが行われました。

栗橋関所は、寛永元年（1624）頃に江戸幕府によって設置されました。栗橋宿と利根川対岸の中田宿間に設けられた関所で、正式には、房川渡と呼ばれる渡船場の近くにあったことから「房川渡中田関所」といいました。



＜栗橋関所模型：久喜市立郷土資料館所蔵＞



＜栗橋宿の町並み＞ 明治時代



＜利根川での渡船風景＞ 明治時代

吉田家水塚は、市内に残る唯一の商家の水塚と考えられており、貴重な文化財として久喜市指定文化財となっています。（平成20年6月26日指定）

この水塚は、利根川堤防強化対策事業に伴い、平成24年3月栗橋北2丁目から栗橋文化会館敷地内に移築・復元されました。

## ＜吉田家水塚＞

吉田家水塚は、石を積んだ高さ約2mの塚の上に、江戸時代の終わり頃に建てられた「大蔵」と、明治37年（1904）建築の「向う蔵」の2棟の蔵があります。大蔵には、寝具や食器類が、向う蔵には商品が保管されていました。

この水塚は、水害が多かった栗橋地区の歴史を物語る上で大切な資料です。



＜移築前の吉田家水塚＞

## ＜吉田家の暮らし＞

吉田家の祖先は、元栗橋（茨城県五霞町）から移住したと伝えられ、現在の当主の方で13代目になります。

昔から、古鉄商、畳表商を商ってきましたが、昭和22年（1947）のカスリーン台風後は金物商に商売替えしました。「たたみや金物店」という名前前で平成7年（1995）まで商売を行っていました。



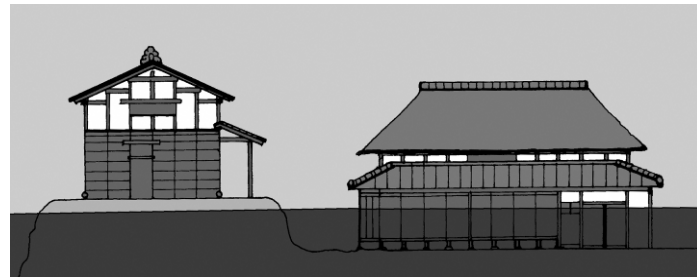
＜昔の店先＞ 大正時代



＜吉田家と利根川の模式図＞

### <水塚とは>

水塚は、洪水から家族や家財道具などを守るためにつくられました。屋敷内に盛り土をして築いた高台、またはその上に築いた建物を水塚といいます。水害の多かった関東地方の低地部に多く見られます。



<水塚と母屋>

### <水のめぐみ>

栗橋地区の歴史は河川と共に歩んだ歴史といえます。村々は、江戸時代以降耕地の開発が進められ、関東地方有数の穀倉地帯となっていました。

また、川や池には多くの魚が生息しており、人々の貴重な食料となっていました。

人々は、水害で悩まされる反面、水から多くのめぐみを受けていました。



<手植えによる田植えの再現> 平成 18 年頃

### <カスリーン台風 ~利根川決壊~>

昭和 22 年 (1947) 9 月 16 日、カスリーン台風の大雨により、東村 (現加須市) 付近の利根川の堤防が決壊しました。

利根川の濁流は、栗橋地区を含む周辺の村々を呑み込み、その後南下を続け 4 日後には船堀 (東京都江戸川区) 付近にまで達しました。戦後まもない関東地方に大きな被害をもたらしました。

### <水害と吉田家>

カスリーン台風による洪水の時、吉田家にも水が押し寄せてきました。家の人たちは、急いでおにぎりや食料品を持ち、濁流の中を水塚に向かい、土蔵に避難しました。このときの避難者は、近所の人々も含め総勢 20 名となりました。

この水害では、水塚の上までは浸水しませんでした。吉田さんは、水塚があったおかげで命が助かったと、水塚に感謝しました。

### <川の遊び>

子どもたちは、利根川や用水路が遊び場でした。夏休みは、ごはんを食べるとすぐに川に行き、一日中泳いだといいます。

また、魚捕りやシジミなどの貝取りをして遊びました。



<利根川で泳ぐ子どもたち> 明治時代

### <島川の獅子舞>

川に囲まれた栗橋地区には、多くの水にまつわる信仰や伝承が残されています。

島川地区の八幡神社には、獅子舞が伝承されていました。この獅子舞の由来は、昔、大水の時に獅子頭が流れ着き、その後中妻地区の人々から獅子舞を習ったといわれています。

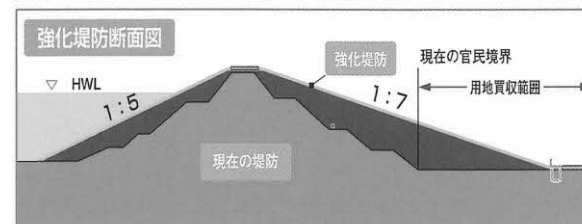


<島川の獅子舞> 昭和 3 年

### <治水と親水>

利根川の大規模改修は、徳川家康によって江戸時代初期から始められ、以降、大規模な災害のたびに改修を繰り返し、現在の堤防が出来上がっています。

現在も、カスリーン台風の被害を繰り返さないよう、国土交通省では首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川の堤防整備が進めています。



<静御前の墓 (改修前)> (栗橋駅東口)

### <静御前の伝承>

伊坂地区には静御前の墓が遺されています。源義経の内妻であった静御前は、義経を追って奥州に向う途中、義経の死を知り、文治 5 年 (1189) にこの地で亡くなったと伝えられています。

この墓は、江戸時代幕府の役人が、静御前の伝説を聞き、墓がないのを哀れみ建立したものです。